

1991年6月13日

第5学年1組 社会科学学習指導案

男子7名、女子13名、計20名

指導者 沼澤 清一

1. 単元名 わたしたちの生活と水産業

2. 単元のねらい

- 漁業の盛んな地域の具体事例を通して、地域の人々が、漁場の安全や漁業技術の改善に努めていることをとらえさせる。
- わが国の漁場の特色と、国民の食生活の上で水産資源の保護および重要性について考えさせる。

3. 指導にあたって

- (1) 日本人にとって水産物は、動物性タンパク源として重要な物である。しかし、今日の様々な加工食品の生産と嗜好の変化によって、その存在は子ども達には感じにくくなってきている。本単元では日本にとっての水産資源の大切さとその確保の重要性について学ばせたい。

日本漁場の特色を、わが国の近海に広がる大陸だな、出入りに富んだ海岸線、暖流と寒流の流れなど、すぐれた漁場としての自然条件について、地図や資料の読み取りを通して学習していくことになる。資料を活用して自分の考えを導き出す格好の単元でもある。

また、日本人の重要な動物性タンパク源としての水産物の自給について考えさせ、問題意識を喚起させることによって、子ども達の目を日本と外国とのつながりに向けることができる。

- (2) 学力の高い子どもの中にも、なかなか、自信のないことは答えられないという子が多かったが、いろんな考えを、自分なりの経験を通して発表することができる子どもが増えてきた。学力的には低位の子でも、時として、すばらしい発表をする姿が目につくようになってきた。

子ども達は、昨年度の「暖かい地方の暮らし」（沖縄）の学習では、パイナップルやさとうきびを通して実物から学ぶことの楽しさを知り、多くの疑問を解決していく中で活気のある授業を行ってきた。教室で学んだことを家庭生活の中でとりあげ、さらに自分の力で調べていくという姿勢が育ってきた。

5年生になり「米の生産」「畜産」の学習では、自分の家庭生活の中から資料を見つけ、経験を通し解決していく姿勢が身についてきた。子ども達が授業後も楽しく調べている姿は、日記を通して日々感じられる。

水産業の授業は、今までの学習よりも、地図や資料の読み取りを通して学ぶことが多くなる。身近な物から資料を集め解決していく力でなく、地図や資料を読み取る力でどこまで自分達で学習を進めていけるか、楽しみでもある。

- (3) 農業の稲作・畜産の学習では、それぞれの子が家庭で実体験を通して詳しく調べ、学習を進めることができた。

水産業は扱いにくい単元である。教える内容が多く、体験学習をすることがむずかしい。地理的条件もあり、実際生活の中からは水産業に対する子ども達の経験・知識は極めて少ない。ほとんどが知識の伝達として終わってしまいがちな単元である。しかし、逆に考えれば、子ども達にとって、あらゆることが新鮮に感動を導くことにもなる。発見の多い、楽しい単元とするため、次のことに取り組んでいく。

①視点を絞って、子ども達にとらえやすくしていく。

②分かったということだけでなく、多くの疑問を持たせ、解決させていく中で、問題解決力を育てていく。

③授業では、可能な限り、実物を使用していく。

水産業の学習にあたって、導入に「浮魚と底魚」を取り上げ、対比することによって、子ども達に海の魚の生態についてとらえさせていく。また、普段目にするののないスケトウダラのゆくえを考えることによって、自分達の食生活を振り返らせ、幅広い物の見方を育てていきたい。この2つの授業で、本単元で学習していく内容について、子ども達の疑問の形で課題を導き出していきたい。

子ども達が家庭に帰ってから、毎日の生活の中でも、魚(水産業)について新しい目で見られるように楽しい、疑問を多く導き出せる授業を行なっていく。

4. 指導計画 (15時間)

第一次	浮魚と底魚	2
第1時	浮魚と底魚の違い	(1)
第2時	いろんな漁法	(1)
第二次	スケトウダラのゆくえ	2
第三次	わたしたちの食生活と水産物	2
第四次	漁場	3
第1時	日本の水産業のようす	(1)
第2時	遠洋漁業・沖合漁業・沿岸漁業	(2)
第五次	漁業の盛んな地域の具体事例(釧路市の水産業)	2
第六次	つくり・育てる漁業(宇和島の水産業)	3
第七次	これからの日本の水産業	1

5. 本時の指導

(1)ねらい 実際目にするのできない海での魚の様子を、浮魚と底魚を実物を使って比べることによって、わたしたちの生活と水産業の関わりについて関心を持つことができる。

(2)指導過程

学習活動	主な発問(○)予想される児童の反応(△)	指導上の留意点、	資料
1. サバとタイを比べて、特長をみつけ、ノートに書く。	○『これはなんという魚ですか。』 △ サバ サンマ タイ ○『サバとタイを比べて、特長をみつけ、ノートに書きなさい。』	本物のサバとタイを提示する。 いろんな魚の名前が出てくることが予想される。答えと違うものでも、その魚の特長を確認していく。 できるだけ多く書かせる。	
2. サバとタイの形と色の違いについて意見を発表する。	○『形はどう違いますか』 △サバは細くて、タイは太い。 △サバはつるつる、タイはザラザラ。 △目の大きさが違う。 ○『色はどう違いますか』 △サバは背と腹の色が違う。	実物からサバとタイを比べる。 (目と手で実物をとらえさせたい) 形と色の違いについて着目させる。	
3. 浮魚と底魚の特長について考える。	魚は、浮魚と底魚、と大きく区別することができます。 サバとタイはどちらが浮魚でどちらが底魚でしょうか。	浮魚……海の上の方に住んでいる魚 底魚……海の下 ”	

	<p>△タイが浮魚。 △タイが底魚。なんとなく重そうだから ○「サバが底魚でタイが浮魚です。」</p>	<p>おおまかな説明をする。 自由に自分の考えを発表させる。 意見のまとまりを待たずに、正解を教える。</p>
	<p>浮魚と底魚はどう違うでしょう</p>	<p>子供は「サバは……」「タイは……」と発表する。これを「浮魚は……」「底魚は……」と言い直させる。個別例の違いから、浮魚・底魚の見分け方の違いであることを意識させる。</p>
体色の違いから	<p>浮魚と底魚を体色の違いで見分けてみましょう。</p> <p>△浮魚は、背中側が青く、腹側が白く、色のこさの違いがはっきりしている。底魚は色のこさの違いがはっきりしていない。</p> <p>○『どうしてかな?』 △自分の身を守るため △上からの敵は、人間や鳥 △下からの敵は、大きな魚など</p>	<p>理由を聞くことによって、さらに深く考えさせたい。 体色が、敵から身を守る保護色の役目をしていることから、魚の生態について考えさせたい。</p>
形の違いから	<p>浮魚と底魚を形の違いで見分けてみましょう。</p> <p>△ 浮魚は細くスマート △ 底魚は太い</p> <p>○『どうして浮魚はスマートなのかな?』 △浮魚は速く泳がないといけないから</p>	<p>回遊魚について説明する。 ↓ 浮魚……エサを求めて季節的に群れをなして長距離を泳ぐ 底角……海底の豊富なエサを食べ、大きな移動をしない</p>
回遊魚について知る	<p>○「浮魚の体の形がスマートなのは回遊魚だからです。」</p>	
身の色の違いから	<p>サバとタイの身の色が分かりますか。</p> <p>△両方とも白い △タイは白い △魚の身の色は全部白</p> <p>○「運動すると、顔の色は?」 △回遊するサバの身は赤い △運動しないタイの身は白い</p> <p>○『では、切ってみます。』 △本当だ</p>	<p>魚の身の色で、浮魚か底角かが分かる。身近な例として、家庭に帰ってから自分で調べることができる。興味を引きやすい内容。 体の形でとらえた魚の運動量と関連づけて考えさせる。 目の前で確かめさせる。</p>
4. 魚のとり方について考える	<p>浮魚と底魚のとり方は、同じでしょうか。違うでしょうか。</p> <p>△同じ ○「調べておきましょう。」</p>	<p>浮魚と底魚の特長から、魚のとり方について考えさせていく。 子供の意見を聞き、正解にはふれない。 次時の漁法につなげていく。</p>

板書

6/13

魚

さば

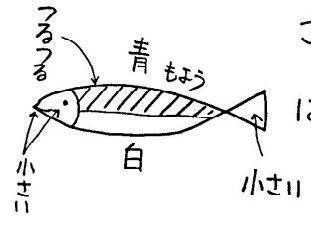
住む所

浮魚

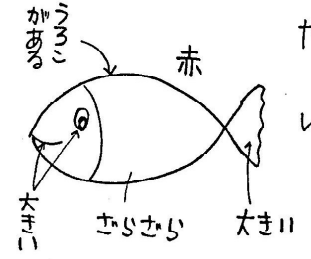
海の上の方

下の方

底魚



- ・スマート
- ・ずんぐり



たい

体色

漁師先鳥
背中が青
はらが白
身を守るため

色のこさははきりしない

形

細くスマート
スピード
群れを
回遊する

太い

スポーツマン

身の色

赤身
速く泳ぐ泳ぐため
血管が発達

白身

ゆっくり泳ぐ泳ぐので
血管が少ない

季節的に群れをなしてエサを求め
遠くまで行く

海底の豊富なエサを食べ
運動不足

釣り方
漁法

網
いしあつたぶん

?

つりざお
そのびき網